

ウメモト インフォメーション

2020年 12月 4日 担当 小松

OPECプラス、減産小幅縮小で合意 来年1月から＝関係筋

【ロンドン／ドバイ／モスクワ 3日 ロイター】 - 複数の関係筋によると、石油輸出国機構（OPEC）にロシアなど非加盟産油国を加えた「OPECプラス」は3日、来年1月から減産規模を日量50万バレル縮小し、同720万バレルとすることで合意した。

ただ、来年の全般的かつ長期的な方針については、なお意見が分かれているという。

OPECプラスは当初、現在の減産規模を最低3月まで延長するとみられていた。しかし、新型コロナウイルスワクチンへの期待から原油相場が値上がりする中、一部の生産国から減産延長に疑問の声が上がっていた。

関係筋によると、ロシア、イラク、ナイジェリア、アラブ首長国連邦（UAE）が来年の減産規模縮小に一定の関心を示した。OPECプラスは1月以降、毎月会合を開き、生産枠を決定するという。月次の伸びは日量50万バレルを超えない見込み。

ウメト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他()

2020年12月3日

担当者: 若崎

報道で原油価格急上昇

【ニューヨーク11日】

原油価格は11月25日、約48%を突破し、現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響の大きさがまだ知られていないが、3月以来、最高値で取引されている。ワシントンに関する楽観的なニュースが価格の急上昇をおこしているが、石油市場は先走りの動きを繰り返している。

新型コロナ第2波の影響注視 「OPECプラスは大幅減産継続を」

原油価格は、ワシントンが新型ウイルスの感染拡大を阻止して通常に近いレベルでの旅行や商業の再開が可能となり、世界経済と石油需要が急成長するとの見込みを前提として動き始めている。各トレーダーはこれまで期近の先物契約を先物上の最高値まで買い上げており、バックワシントン(遊サヤ)となっている。原油市場の構造は石油市場が逼迫気味であることを示している。しかし現物市場の原油価格はペーパー市場に追随しておらず、石油のファンダメンタルズは現在の市場が期待だけで上昇している。

先行するに合意し、それを厳密に順守しなければならぬ。さらには来年の石油需要が現在の予想で5000万バレル以上回復すると期待している。ただし迅速なワシントンの供給が実現すれば可能となる。ワシントン原油価格の上昇は現在、世界が基本的に新型ウイルスを支配下に置いていくことを示唆している。2021年1月に荷積み分のワシントン原油先物は先週初め、2021年12月に荷積み分の先物より30%安く取引された。新型ウイルスの感染拡大のピークを過ぎ、12月後の積み荷に對する現物価格は15%割安だった。11月初めにはまだ37%割安だったが、その後ワシントンの発表によりそれは消え去っている。

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

「OPECプラスは大幅減産継続を」

(取材：燃料油脂新聞)

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年12月3日

担当者: 若崎

クウェートと 共同石油備蓄

エネ庁

資源エネルギー庁は1日、クウェートの国営石油会社クウェート石油公社(KPC)との間で、クウェート産原油50万総(約314万バレル)を日本国内に貯蔵する共同石油備蓄事業を開始すると発表した。鹿児島市のENE

OS喜入基地のタンクをKPCに貸与し貯蔵する。今年度中に受け入れを開始予定だ。

含むアジア向けの供給拠点として活用。中東からの原油供給が途絶する緊急時には、タンクから原油供給が途絶する緊急時には、タンク

アジア エネ安保強化へ第三国融通も

原油50万総は日本国内の石油消費量の約1・5日分に相当する。平時はKPCが日本を

ク内の原油を日本向けに優先的に供給する。またベトナムやフィリピンなどASEAN

エネ庁は3月に策定した新国際資源戦略に基づき、中東内における原油の調達先多角化、アジア各国と連携した石油備蓄体制の整備を進めており、今回のクウェートとの共同石油備蓄事業はそうした取り組みの一環だ。2019年現在、日本の原油調達先に占める割合はサウジアラビアが35・8%とトップ。次いでアラブ首長国連邦(UAE)29・7%、カタール8・8%、クウェートは8・5%と4番目となつてくる。産油国クウェートの関係強化することで、日本の危機対応能力のさらなる向上につなげる。

ウメト インフォメーション

2020年 12 月 3 日 担当 小松

▶鹿島道路/モーターグレーダーに接触防止装置を搭載/距離別に3段階の設定可能 [2020年12月3日3面]



モーターグレーダー後方の上にカメラ付き赤外線センサー、下にミリ波レーダーを搭載している

鹿島道路は道路舗装工事の安全確保対策として、舗装機械のモーターグレーダーに作業員などとの接触防止機能を搭載した。作業員が着用する安全反射チョッキを識別し、一定範囲内に人が接近すると減速したり停止したりして接触事故を回避する。赤外線センサーとミリ波レーダーセンサーの2重で接触防止機能を設けている点が特長。対象物との接近距離に応じて3段階に動作を設定でき、ブレーキ作動時の衝撃を緩和する。

ブレーキアシストシステムを搭載したモーターグレーダーは1台を現場に導入済み。年度内に3台まで増やし、その後は段階的に現場に普及させていく。

モーターグレーダーの後進走行時だけ自動ブレーキが作動するようにした。作業員に安全反射チョッキを着用してもらおうと、赤外線センサーが反射率から安全反射チョッキとそれ以外の物体を識別し、車体にブレーキがかかる仕組み。別系統のブレーキとしてミリ波レーダーセンサーも設けており、赤外線センサーが不調で作動しない場合も自動ブレーキが作動する。複数のブレーキ機能を搭載することで安全性を高めた。

ブレーキは対象物との距離別に3段階で設定できる。最も遠い距離に対象物を検知した場合は、最大25メートルの範囲で警報装置の作動と同時に、後進走行のギアを4速から2速に落とす。次に遠い距離ではエンジンの回転数をアイドルリングに下げ、エンジンブレーキを利かせる。最も近い距離ではフットブレーキが作動し、確実に停止する。段階的にブレーキを利かせることで柔軟なブレーキ動作を確保し、オペレーターにかかる衝撃を和らげる。ブレーキが作動する対象物との距離は任意に設定できる。

道路舗装工事に使う重機は、ホイールローダーなどにブレーキアシストシステムの導入が進んでいる。一方で、モーターグレーダーは最大で時速20キロの速度で50～60メートル後進するにもかかわらず、確実に停止する機能が現場に導入されていなかった。